

Education for All

平成 20 年度採択 質の高い大学 特別支援教育時代の教員養成

～客観的なアセスメントと指導計画の作成～

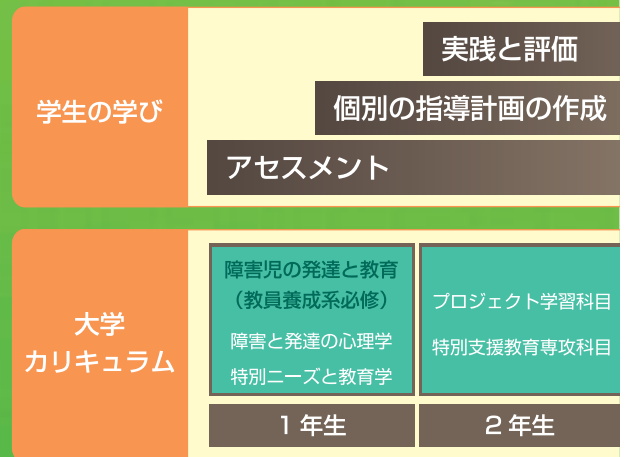
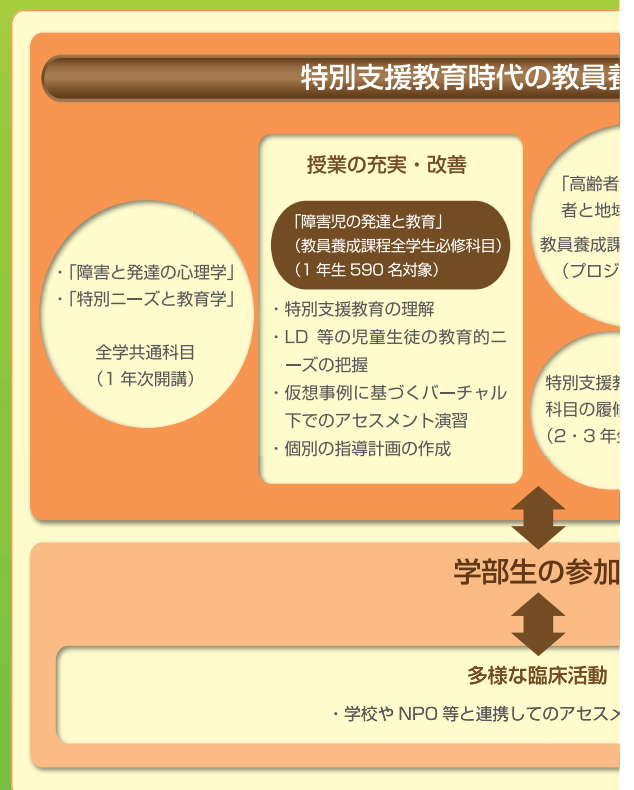
小・中学校等には LD 等の特別な支援を必要とする児童生徒が 6.3% (2002 年の文部科学省調査) 在籍しているとされています。東京学芸大学では教職を目指すすべての学生に対して児童生徒のアセスメントとそれに基づく指導実践のための力量形成を目指した取り組みを展開します。

事業のねらい

本学教員養成課程に属する全ての学生を対象として、特別支援教育に対応できる小中学校等の教員養成の充実を図る。具体的には、アセスメントとそれに基づく個別の指導計画の重要性を理解し、その作成に必要な力量を備えた教員養成システムを開発、試行、実施する。

平成 20 年度から 1 年次必修科目の授業改善を行うとともに、平成 21 年度からは教育実習時において、全附属学校における特別支援教育コーディネータによる特別支援教育に関する講義を行うこととする。このような、附属学校と連携した全学的取組の拡充により、特別支援教育に関する指導技術の高い教員養成システムを構築・実践することが本事業の目的である。

事業概略図



特別支援教育推進プログラム(教育 GP) 教員養成システムの開発

できる小中学校等の教員養成を目指して～

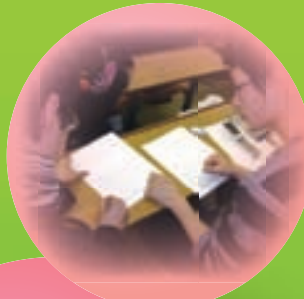


国立大学法人 東京学芸大学

本取組の3つの柱

教育実習 の充実

3～4年に行われる教育実習の際に、全附属学校園において、各学校の特別支援教育コーディネータにより、発達障害の理解と支援を中心とした特別支援教育についての説明を行う。その際に使用する講義用スライドやビデオ等は、附属特別支援学校が特別支援科学講座等の教員と共同して作成する。このシステムのねらいは、教員をめざすすべての学生を対象に、充実した教材、講義資料等により、実習の場において特別支援教育の基本的な知識・技能等の仕上げを行うことにある。



授業の充実

本取組では、第一に、教員を目指すすべての学生に対して免許法科目として1年次に課している必修科目、「障害児の発達と教育」に関する内容吟味・改善を行い、組織的・系統的に特別支援教育の基礎基本とアセスメント・個別の指導計画の作成の実践を行う授業へと転換させる。仮想事例に基づいた実践、ロールプレイなど、講義科目ではあるが、演習・実践的意味を持たせる工夫を試みる。

第二に、全学を対象にした選択科目「発達と障害の心理学A・B」「特別ニーズと教育学」「プロジェクト学習科目」の内容吟味を行い、前者2つでは「障害児の発達と教育」の内容を補完する役割を、後者は教育実践への展開を重視した内容へと転換させる。



多様な 臨床活動

希望学生に対して、特別支援科学講座の教員がすでに組織している外部専門機関等（特別支援学校、医療機関、NPO等）と連携した発達障害児の臨床実践の場を開放し、教育の実践力を継続的に積み重ねられるようにする。臨床活動に大学院生等が参画することにより、特別支援教育に関連するより高度な教員としての資質を養うことができる。



養成システム

実習の充実・改善

- ・全附属学校において、実習生に対する特別支援教育に関する最低限の知識と技能を説明

特別支援コーディネータにより実施。

- ・講義スライドは、附属特別支援学校において特別支援科学講座と共同で開発

、障害児・
職」
課程 2年生対象
エクト学習)

教育専攻
多
生対象)

ントと臨床活動

教育実習やその他の教育臨床活動

ロールプレイやケース事例（作成演習）

各障害が発達にもたらす影響を知る
各困難に応じた評価法について学ぶ（演習形式）

教育実習
特別支援教育専攻科目
教育臨床実践

教育実習
教育臨床実践

3年生

4年生